



伊丹市立幼児教育センター通信

ときめき ひらめき

Vol 20 (令和6年8月)
発行:伊丹市立幼児教育センター
住所:伊丹市千僧1-1
電話:072-780-2488
アドレス:youji-ed@city.itami.lg.jp

「保育者の仕事 魅力発信」 R6.8.7(火)開催しました

わかばこども園にて、伊丹市内在住・在学の中高校生対象のイベントを行いました。当日は、6名の高校生の参加がありました。0歳児から5歳児クラスまでの各保育室にて子ども達と一緒に遊ぶ中で、子ども達がキラキラした眼差しで遊びを通して学んでいる姿を知ってもらうと共に、公私、またこども園・保育所・幼稚園の種別問わず、保育者の仕事の魅力を感じて欲しいと願い企画しました。

園長先生から→まだ言葉が未獲得な乳児であっても、何歳の子どもに対しても愛情をもってかわることが大切。
1つ1つの言葉かけで子どもの心は満たされていくことを伝えて頂きました。

幼児はたくさん話すことができるのだなあ



乳児にはどう伝えたいのかな？



高校生より質問！
話しかけても返ってこない子にもそのまま話しかけてもよいのか？
見守っていた方がいいのかな？

園長先生より→話しかけても返事がなかったのは、どうしてなのか、子どもの心の内面を読み取ることが大切。その子が夢中になって遊んでいるからなのか 集中しているからなのか 恥ずかしいからなのか？個々に違う。また、3歳児は人が好き！誰かと遊びたい気持ちがいっぱいである為、自ら誘って声をかけてきてくれるが、5歳児は自分のやりたいことに夢中になっていることもある。個々によっても違うし年齢によってもかわり方は違う。子どもの姿や内面の読み取りによって声のかけ方や遊びの支え方も違うことを伝えて頂きました。

イベントを終えて…

「子どもって、皆がもっと自分から関わりに来てくれると思っていたけれど、実際はそうではなかった」
「乳児は自分の言葉で伝えてくれるが、何を伝えようとしているのかわかってあげられなかった」
「小さい子どもと関わるのが少なかったので、有意義で楽しい時間だった」
「赤ちゃんだと思っていたけれど、そうではなかった。幼児になっていくとたくさんの言葉を話し、大きくなったなと成長を感じた」等高校生自身が子どものもつ力の素晴らしさに気づき、様々な感想を伝えてくれました。

最後にセンター長から「就学前の子どもたちは個人差が大きい為、一人ひとりに合わせた関わりや内面の捉えが難しい。しかしそこが保育の楽しさでもあり、子どもと通じ合える瞬間がある！そこが保育の仕事の魅力ですね。」と保育の仕事の魅力を伝え、イベントは終了しました。

園を出て帰路に就く高校生が、来園時よりも笑顔いっぱい元気な声で挨拶して帰る姿が印象的でした。子どもとのふれあいを楽しんだ今回の経験が、参加者のキャリア支援に、また次世代の保育者育成につながればと思います。